

みんなで支える

案

平成30年11月9日
在宅療養連携会議
第3回全体会議 資料1-2

在宅療養シンポジウム

穏やかな旅立ちのために

人は、いつか、どこかで、人生の最期を迎えます。

もしあなたが最期までおうちで暮らしたいと望むなら、その望みが叶うまちを横須賀市はめざしています。

プログラム

基調講演

「終の棲家で平穏死」

あなたは、どこで、どのように人生の最期を迎えたいですか？

「終の棲家」「生活の場」としての特別養護老人ホームでの取り組みや人生の最期を平穏に迎えることについてお話しいたします。

パネルディスカッション

「平穏に旅立つための支援と準備」

人生の最期はひとそれぞれです。それが、いつ、どこであっても穏やかに旅立つためには支援と準備が大切です。

パネリストのお話を聞きながら一緒に考えましょう。



講師

東京都世田谷区立

特別養護老人ホーム

芦花ホーム

医師 石飛 幸三 氏

平成31年1月27日(日)

13:00～16:00(開場12:30)

会場 ヨコスカ・ベイサイド・ポケット

(横須賀芸術劇場小ホール 横須賀市本町3-27)

入場無料

事前申し込み(定員400名)

申込先:横須賀市コールセンター

ネット、電話046(822)2500、

FAX046(822)2539へ

申込期間:12月11日(月)～平成31年1月17日(木)

定員に満たなかった場合、当日受付あり

手話通訳・要約筆記あり

主催:横須賀市 後援:一般社団法人横須賀市医師会

問合せ先:横須賀市健康部地域医療推進課 TEL046-822-4332

会場案内図

基調講演講師プロフィール

石飛 幸三 氏 Kozo Ishitobi

特別養護老人ホーム芦花ホーム 医師

経 歴

1935年広島県生まれ。1961年慶應義塾大学医学部卒業。

消化器外科専攻、その発展の為に血管外科の必要性を感じて1970年から、ドイツ、フェルディナンド・ザウアーブルッフ記念病院で血管外科医として勤務。

1972年より東京都済生会中央病院で血管外科の応用手術に励むとともに、30年に渡って脳梗塞の

予防を目的とする頸動脈内膜摘除術や野球ピッチャーの血管損傷の手術法の発展に寄与した。

老衰へどこまで医療が介入すべきかを考え、13年前より特別養護老人ホーム芦花ホームに勤務し、現在に至る。

著 書

平穏死のすすめ（講談社）、「平穏死」という選択（幻冬舎ルネッサンス）、「平穏死」を受け入れるレッスン（誠文堂新光社）など。

パネルディスカッション概要

テーマ 平穏に旅立つための支援と準備

横須賀市では「在宅療養・在宅看取り」を望む市民が安心して自宅で療養できるよう取り組みを進めています。しかし、在宅療養だけがすべてだとは考えていません。老人ホームやグループホームなど高齢者が暮らす施設はさまざまあります。そこで暮らす高齢者にとって、そこは終の棲家。施設でも穏やかに最期まで生きるというまちでありたいと考えています。

今回は人生の最期をどこで迎えるとしても、悔いなく平穏に旅立つためにどういった準備が必要か、看取りにかかわってきた方々からお話しをお聞きます。

また、パネルディスカッションの後には横須賀市内で在宅医療に取り組む医師をご紹介します。

パネリスト	医療法人癒しの会 野村内科クリニック 院長 医師	野村 良彦 氏
	社会福祉法人興寿会 興寿苑訪問看護ステーション 管理者 看護部長 看護師	後藤 美恵子 氏
	社会福祉法人日本医療伝道会 チャプレン	大野 高志 氏
	横須賀市健康部地域医療推進課 課長	川名 理恵子 氏
コーディネーター	一般社団法人横須賀市医師会 副会長 社会福祉法人心の会三輪医院 院長 医師	千場 純 氏
コメンテーター	石飛 幸三 氏	